

# ジョシ

作・演出 広田淳一

## 【登場人物】

---

カオル ……一人暮らしの女子大生。

真夏原 ……その友人(?)

## 前提

客入れ音楽が掛かっている劇場内。

田をモチーフにした舞台美術。

上奥には洗濯機、兼、乾燥機の丸い穴があいた物体。

## 1 夏の朝

### 夏の朝 ◎フランドールへ

舞台スタッフによって化粧台が置かれる。

そして自転車のタイヤからゴム部分を取り除いた金属の輪が置かれる。

その輪にハンガーのようにして服を吊るす。

1人の女（カオル）が登場し、化粧台の前で入念に化粧を始める。

彼女は目立たないコートのような服を着ていて、やがてそれを脱ぎ捨てる。さあもういよいよが容易に想像できる。客席からは彼女の後姿と、鏡の中に映った像が見える。

やがて準備をすべて終えた舞台スタッフが化粧台を取り除く。

彼女は何事もなかったかのように化粧を続行する。

すると取り除かれた鏡の向こう側に彼女と同じ姿勢をした別の女が立っていて、やはりこちら側にむかって化粧をしている。

いつしか2人は鏡に手を伸ばしお互いの手を握りあう。

二人 ジョシ！

カオル 普通の朝だった。バイトの徹夜明けで帰る真夏の日本の朝まだき。これから起こるやっかいな出来事を予感することもなく、私はのほほんと自転車に乗っていた。いしもやかましい遊歩道まわりの時間帯だけは、夏休みの学校の長い廊下！

静寂。

カオル ……音は吸い込まれ幾何学的な「長さ」だけがそこに横たわっている。遠くの方で聞こえる自動車の排気音を聞きながら、私は、流線型のサドルに跨ってアスファルトの廊下を滑るように蛇行した。シャベル——っ！——っ！の音が私がこの自転車につけた名前。「シャベル」。穴掘れるわけでもなけりゃ、言葉を発するわけでもない一介のチャリンコに「っ！」で「シャベル」なんて名前をつけたのか？ それ今となっては知る由もありませんが、その時はただ、そういう気分だったんだよ——っ！

2人 「よっ、フロロ」。そうっつてそれかわらじ、

カオル 水を打たれた豆腐屋の前おはめちゃんか手を合わす八幡様の前をフロントムして通り過ぎ、ボブスレーよろしく自転車をば泳がせる。音を失ったその瞬間に、スポークの立ってる回転音を注ぎ込むように「アハハハ。ヘダルを、踏み込んだー」

カラカラとスポークが回る。

台詞途中からトラックの走行音がうっすらと聞える。

遠くのほつぽすの急ブレーキの音。

照明変化。

カオル、イスに座りおもむろにアイスを食べ始める。

やがて、観客の視線に気づき、そちらに喋りかける。

---

## 夏の朝 @ランドリー

---

カオル あ、これアイス……。あの、自分への「褒美」っていつか……。夜勤明けはアイス食べていいって決めてるんです。なんせ！ 徹夜明けの私が元気なのはお腹が空いている間だけです。何かを口に入ればたちどころに睡魔に襲われる。私には、作戦があった。「夜勤明けのアイスはコインランドリーで食べねばならぬ」。今日の時を迎えるまで、木で出来たショックング・ピンの表札の掛かっているフールームマンションの自室には、ゆうに一週間分を超える洗濯物が鎮座している。その量といったら……。Tシャツやらキャミソールやら、ブラジャーやらジーンズやら靴下やらタオルやらパンツにニーソックス、プリーツスカートに、縦に3本のラインの入ったベージュのジャージーやら……。とにかくいろいろ有様で、実のところ、このところ私は、たいへん窮屈な思いをしているたのである。そこで私は、大量のくだびれたお洋服たちを引き連れて、マンションから少し離れたところにある24時間営業の「コインランドリー」に赴いた。今日、初めて。朝に寝て夕方起きる私が常々考えていたことはただひとつ。「起きたらまず洗濯をしようー」。おやすみー！

カオル、急に寝そべる。

と、近くで目覚し時計の音が鳴る。

女 ポーポーポー――

カオル ……あと5分。あと5分。

カオル、目覚し時計役の女の頭をたたく。  
音が止まる。

カオル ええ……もう時間じゃん……ま、洗濯は明日でいいか。

二人 よしー！ 叩叩

カオル とそんなこんな挫折まみれの1週間。汗にまみれた洗濯物はそこに放置された。私は今ここで、何度もも忘れてしまつた人生の教訓を今一度復唱しようと思つた。

女 寝る前と起きた後とではまるで違う人間になってしまつから、起きてからやるつもりは寝る前にやつてしまいなさう……  
は寝る前にやつてしまいなさう……

カオル え？ なに？

女 だから、

カオル うん

女 起きてからやるつもりは寝る前にやつてしまいなさう……

カオル とー！ いつこつを……。アイスをね、これ食べるから寝ちやうなです。だけどね、アイスは絶対っしょ？ これ絶対。譲れねえでしょつこつと、ホィ、

2人 「夜勤明けのアイスはコインランドリーで食べればいい！」

カオル 失敗を乗り越えるためにはいつだって発想の転換をやつが必要で、だって、一度敗れてしまった戦法にいつまでもこだわるやり方は頑迷な老將軍のやることであつて、まだ二十代に足を踏み入れたばかりの私のやる、やり方ではない。なんせ私はまだ、一夜を共にした男の数が片手

女 と少々

カオル で足りてしまう程の初々しさだから、そういう軽率さは果敢にウリにしていきましようつて話であつて、そしたら、へい、その5人を紹介いたしましょう。父・小次郎、兄、健太、祖父・正二郎、隣近所の田宮マヒロ君、そしてオカマのピノッチ。

女 と、もう一人はシークレット。

カオル ほらごらん。ほら足りた。

女 こと足りた？

カオル コスタリカ。

女 小須田りか。

カオル アヤセハルカ

女 アラカワシズカ？

カオル アラバスクー……。

いじまで言つて、うしろうしろとたた寝を始めるカオル。

と、「女」が真夏原として語りだす、

真夏原 コインランドリーってのは「リ、潤いと乾燥とが隣り合わせになつて横たわる、いわばおじいさんが芝を刈つてくる」山とおばさんが洗濯をした「川」が一つになっている場所なわけで、ビュをびゅつたつてきてさうなつたのかはわからない、ただ、気が付いたら私の状態はカインテンチュウ、だった。店開いてるほうじゃない。ゆるゆると、回る方——回転中。コインランドリーの奥から番田にある、少し壊れかかった実はこの一台だけ購入年の古い茶色の、この乾燥機の中、で回転中だったわけでありまして、田が回るよ。ホトホト、へ——っ……

真夏原にとっては久しぶりの再会

カオルにとってはなんだかよくわかからない人物との初対面。

乾燥機から真夏原がはじき出されるようにして飛び出ていく。

カオル、その真夏原をじっと見る。

真夏原、その視線に気がき田を言わせる。

カオル、目をそらす。いそいそとイヤフォンをつけて知らん振り。

真夏原、あからさまな無視にちょっと笑う。

近くに座る。

ちよつとの間黙っている。

真夏原

何よ。……何？

カオル、イヤフォンを取る。

カオル

え？

真夏原

何、今見たでしょ。見たよね、ニンニク。

カオル

はい。見ました、けど、いや、なんかだつて、今……。

真夏原

元気があった？

カオル

え？ あ、いや、うーん、え、あんじから出てきまして……？

真夏原

あんじ？ どう？

カオル

あの、今、乾燥機から出てきました？ よね。

真夏原

……口を噛みなさい。

カオル

は？

真夏原

好きでやっていると思つたのになじ。

カオル

だつて、あ、はい、すいません。

真夏原

なにそれ？ 何聞いているの？

真夏原、自分にもイヤフォンを渡すように促す。

カオル

やめてください。なんなんですか。

カオル、真夏原を追い払う。

真夏原

……どうもあんじ、ニンニク、やっぴから、なんとでーん語。

カオル

ん？ ニンニク？

真夏原

どうしてそう水入らずの再会に水を差すかね……。ナーキーマースーヨ！ 私泣いたら困る

でしょ？

カオル ええ。困ります……けど、なんか人違いとかしてませんか？ あたしニシンのかまのついでに名前  
じゃないんですけど。

真夏原 ★ん、ん、ん、ん？

カオル え？ あ、あの、あたしあの、高橋ついでに……。

真夏原 ★高橋カオルでしょ。

カオル あれ？ え、はい。

真夏原 真夏原裕美です。どーぞよろしく。

二人握手。

カオル ついでにじゃなくしてね。

真夏原 高橋カオル。つまりニシンでしょ？

カオル そんな風に呼ばれたことないですよ。

真夏原 あるよ、呼んでたあたしが言ってたから。

カオル え、いつの話ですか

真夏原 うーん。え、もう十五年……ちかく前？ 八歳とかだったから、うーわ、十五年前を話して  
しまつ自分が嫌。

カオル わかりますー。

真夏原 ねえ。

カオル え、でも呼ばれてないですよ。そんな……。

真夏原 だってあたししか呼んでないから。せっかくならばあげたのね。「ニシン」。おいっす  
名前なのに皆呼ばないの。ね、じゃん食べた？

カオル ん・はこ？

真夏原 ごはん。お食事はお済みですか？

カオル ああ、まあ。

真夏原 (驚いっ) えっ、食べたの？

カオル 軽〜。

真夏原 え、ほんとにっしてんの？ 何やっしてんの。あたし食べてたのニシン。そで何食ってんの？

カオル え、アイスです。桃アイス。

真夏原 ちよつとそれ頂戴よ。

真夏原アイスを取って食べる。

カオル ああ……、っ、誰ですか？

真夏原 そのネタ引つ張りすぎだ。全然おもしろくないかな。いぢおっすわ。

カオル え、ネタとかじゃなくその……？

真夏原 ……じっす。寝てたまのニシンね？

カオル ……すみませせえ。

真夏原 ほーん。シヨックだなー。ま、しょうがないか、あたし死んじゃったしね。  
カオル は、え、死んじゃったんですか？

真夏原 そろ。語れば長くなるけども。そっねえ……あんて一言で感想を言わねえのよか？  
—「無念じゃなご」。

カオル 聞いてなご。

短い間。

真夏原 うし。じゃ、行くじか。

カオル え、えいじか？

真夏原 こじ通してゐる昔のじと確かめに行いじか。

カオル いや、これはちよつとてか、ちよちよちよちよ待つてオヤ、じじと騙してたんですか？

真夏原 こんな狭いじか？

カオル いや、そっ……無理ですよ。

真夏原 だから敬語止めて。気持ち悪いな。

カオル ああ、じじめど。

真夏原 ほら、早く行いじか。

カオル 行くじか、や、乾燥機はあ……。

真夏原 何。何か悪い？ 恐怖症？ 乾燥機恐怖症？

カオル じゃないですけど、普通、乾燥機しか入らないんじゃない？

真夏原 普通かどつかなんて関係ないでしょ。

カオル でも、こんな朝っぱらからそんな……。

真夏原 時間なんて関係ない。

カオル この中は……。

真夏原 場所なんて関係ない。あんたが行きたいから行く。それで十分でしょ。

カオル や・ちよつとカッコいいね、あんた。

真夏原 ありがとう。あんただって随分小奇麗になっちゃっ、あ、小奇麗ね、あんた。

カオル あ、そっ？ だげじよメンロメン、あたし全然行きたくなごだだけじよ……。

真夏原 だったらね、二人でお墓に行ったのは悪くないよ。

カオル お墓？

真夏原 そっ。ほら、消化器でなんか、バーじよお墓を掘り田じよ墓じよ墓じよ。さっさいやな。

カオル ……んー？

真夏原 ほら、お化けとか幽霊とかニシンはそっじよすっじよ怖がってたから、そんなもんこの世  
にはいないんだって。お墓なんてただの石コロコロと同じなんだって、それ確かめるためにやっさいやな

い？

カオル、そんなバカな、とじよ顔をしたる後、



カオル ……やったかも。

真夏原 そうだよね。

カオル それは覚えてる。なんか消火器強烈だったし。

真夏原 量がね。あんなに出ると思わなかったよね。

カオル だからあたし、この前のライブでそういうのやったしね。パフォーマンスとして。

音楽がかかる。一瞬だけ、カオルのライブの情景。

真夏原 おーライブ？ バンドなんかやってんだ。なにやってんのニシン、ギター？ ベース？ そ

れか昔みたたくバイオリン？

カオル え・なんで知ってるの？

真夏原 やってたじゃんあの頃から。やつぽそれだ？

カオル いや、まあ……、ボーカル？

真夏原 すごいじゃん。バンドの顔じゃん！

カオル いや、すごいな。すごいとかがあひえな。い。

真夏原 なんつーの、なんつーのそれ？ バンドの名前は？

カオル サルカン。

真夏原 は？ なにそれ？ ぶっぶっの意味？

カオル 猿の輪っか。環状線の環で……、サルカン、みたいな。

真夏原 ……はめ？

カオル はあ、とか言わないでよー！ いいじゃん、もう辞めたんだから。

真夏原 あー、辞めたの？ いっ！

カオル おとこい。解散ライブだったから。

真夏原 おとこいか……っておとこいか！ へー、どっかへらいやってたのそのバンド？

カオル 3年ちよい。

真夏原 大事件じゃんー！

カオル あんだ、うるさい。

真夏原 コメント。

カオル だから、まあ……今はいちおう、一段落っていつか。

真夏原 そっかあ。

カオル うん。

問。真夏原、2本の指の「人間」をカオルの足元から上に向けて這わせる。

カオル 行かないよ。絶対行かないよ。

真夏原 準備はよくしてニシン？

カオル よくしてよ。

真夏原 お！

カオル あれ？

真夏原 思い出して、ニシン？

カオル ああああ、てめええええ！ ハラッパ！

真夏原 そう「ハラッパ」！

カオル 猛烈に嫌な感情とともに思い出した。ちっちゃい頃のあたしを散々にいじめちらした、隣近所のどつしよつもないくそガキ。ハラッパ。

効果音：消火器が出る時の音。

カオル そつだったそつだった。確かに、ダークグレイの墓石に消火器ぶっぱなして、真っ白けにした覚えがあった。墓石踏みつけにして白煙撒き散らした、その充実感。うしろめたい感じと怖い感じの入り混じった、こげーい感覚を今も私は覚えている。

真夏原 魔法のようにそれは、あたしも、ニシンも、お墓も雑草もみんな真っ白けに姿を変えた。ハンドルを握り締めたあたしの手も真っ白けで、こんな風にして、あたしたちはいろんなものを、世界を変えていく事ができるんだ！

照明変化。

曲、大きくなる。

カオル 引き込まれるままに巻き込まれ、私は乾燥機の中へ、取り込まれていったのであった！

場面転換。

夏の午後 ◎覚醒

夏、を現すSE。高校野球の音。金属ハットでボールを打つ音。歓声。  
真夏原、着替え。

カオル く——っ！

真夏原 すいません、何やっているんですか？

カオル え……あれ？

真夏原 は？

カオル あれ、ハラッパだよね？

真夏原 ……何がですか？

カオル いや、あなたが。

真夏原 あたしが、……ハラッパなんですか？

カオル そう

真夏原 違います。

カオル いや、……原っばではないんだけどその、ニックネームでしょ？

真夏原 はあ……。

カオル あ、それあたしの（アイス）を指して

真夏原 いや、あたしのですよ。は？

カオル あれ私、なんか……。

真夏原 はい？

カオル 寝てました？ っか……叫びました？

真夏原 ええ。でっか。

カオル うーん。なんか難しいな。

真夏原 ああ、ていつか、あの、

カオル はい？

真夏原 今、乾燥機から出てきました？

カオル ふー。

乾燥機のフタを開け。

カオル なにしらばっくわてたの？

真夏原 ばっくわてはない、むすけ、え、すいません、あの、（うごっ、真夏原顔を叩く）

カオル 帰らないでよ。人のアイス持って。

真夏原 私のです。

カオル 桃アイス。

真夏原 桃アイス。

見つめ合う間。

真夏原 あ、そんなに欲しかったら、どうぞ。

カオル ってあたしのだから。

真夏原 じゃ、そういってはいけませんよ。

カオル うえー、釈然としなない。あ、そつだ。消火器。消火器。

真夏原 え？ は？ 大丈夫ですか？

カオル いいからちよつと来てよ。ちよつと。

真夏原 や、ちよつと放してくたさいよ。えっ？ いじめっ？

カオル いじめじゃなしにや、ほい。

消火器を持つてくる。

真夏原 消火器ですね。

無言。

真夏原 なんですか？

カオル 本当にあたしのこと知らない？

真夏原 知りません。

カオル ニシンニシン。

真夏原 ……お魚さんですか。

カオル 魚じゃない人間よ。

真夏原 わかります。

カオル 高橋カオル。

真夏原 それは私の名前です。

カオル は？

真夏原 いや、私、高橋カオルですけど……っつて、え？ なんて知っているんですか？

カオル ーん？ 真夏原裕美さん、じゃなくっつて？

真夏原 誰ですかそれ？ え、っつていつか、あなた誰ですか？

カオル だから高橋だっつーの。

真夏原 それはあたしですって。

カオル あたしだつて、よーし！ そんなに言っつんならネ、高橋カオルクワイズ！

真夏原 なんですかそれは。

カオル 全問正解だつたら、認めてあげるわいよ。

真夏原 ……ごうたよ。

カオル ポーン。題1問。高橋カオルその人が一夜を共にした男は全部で？

真夏原 5人。と少々。

カオル ですがあ……、

真夏原 帰りたい。

カオル その5人とは一体誰でしょうか？

真夏原 父・小次郎、兄・健太、祖父・正三郎、隣近所の田宮マヒロ君、そしてオカマのピンチ。と、もう1人はシークレット！

カオル、やるだけやる。

カオル あーあ、やりきっちゃった。やりきっちゃった。なんで知ってんのよ。

真夏原 自分のことですから。

カオル 聞きわけのない子ねー。

真夏原 どっちがですか。

カオル んー。なんだろう。ちょっと前には、ちょっと今のあなたみたいな立場だったのよ。あたしが。

真夏原 はア……。

カオル あんたがいきなり乾燥機から出てきてさ、「へーっーっー」とかっつてさ。幼馴染とかいってないじゃん。

真夏原 あなたの幼馴染なんですか？ あたしが？

カオル そうそう。それでなんかあたしとしてもぼんやり思いついてたのよ。ちっちゃい頃に消火器で遊んだなー、っついでさ、一緒にね。

真夏原 遊んでませんよ。私は。

カオル いや、遊んだのよ。

真夏原 そんな強引な……。

カオル (消火器を見て) ちょっと出してみるか。

真夏原 え？

カオル 何かのきっかけになるかもしれないし。ね？

真夏原 それはちよっつ……。

カオル ダメ？

真夏原 ダメですよ。

カオル ★えい！

真夏原 だから！

SF 消火器を使う音。

その情景を二人は演じる。スローになる。

墓石を真っ白に染め上げている。

2人、着替え。

カオル ゴホゴホ。

真夏原 あれ、大丈夫ニシン？

カオル 大丈夫じゃないよ。やめてって言ったじゃんよー。

真夏原 仕方ないよ。消化器は途中で止まらないうつ田来てるんだか。

カオル 出すなっこの。そもそもオ。

真夏原 それはそうなんだけども。わー。真っ白け。

カオル 罰、かぶるよほんと。はちかぶら姫だよ。

真夏原 どうでもいいじゃん、そんな。

カオル よくないよ。

真夏原 いや、よくないんだけど、むしろいいかもさ。思いたい私でいたい私たちじゃあ？

カオル なんだそりゃ。でも自分のお暮っ白けにされちゃったら嫌でしょう？ 自分がされたら嫌

なことはしやしないんだよ。

真夏原 ふん。「自分がされたら嫌な事は……」誰に教わった？

カオル 先生。

真夏原 あたしなら燃えるけど。

カオル 燃える？

真夏原 燃える燃える。自分の暮っ白けなんかにされたら嬉しくてもだえちゃうね。

カオル 変態。

真夏原 変態で上等。だから自分がやってもらって嬉しいことは他人にもしてあげないよ。

カオル いや、嬉しい人とそうでない人がいるから。

真夏原 そんなのわからないじゃん。喜ぶか嫌がるかわからないんだったら私が喜ぶと思ってやんなきゃどうしよう？

カオル ええ？

真夏原 じゃなきゃごめんないでしょう、誠意が。真心が。マガカラガ。

カオル きっと嫌がるよ。

真夏原 きっと喜ぶよ。だってね、あたし、このお暮に入っている人の生まれ変わらだから。

カオル え、そっなの？

真夏原 そっ。のみなはず、ニシンもね。

カオル ん？ ハリップがこの人の生まれ変わらなの？

真夏原 ニシンがこの人の生まれ変わらでもあつものよ。

カオル それおかしくない？

真夏原 全然。だって、生きている人はみんなあたしの生まれ変わらだから。(突然びりっ！口調)

なり(結局、みいんな一人の人間の生まれ変わらなんだ。

カオル そっなの？

真夏原 ぐんぐん巡ってるのよ。だってほら、命には限りがないけど、時間には限りがあるから。

カオル じゃあなにじゃあ。

真夏原 なに

カオル いつかあたしがハラッパになっちゃおうわけ？

真夏原 そつ。そつであたしがニシンになる。

2人 嫌だー。

真夏原 でも、そついつ仕掛けになってるんだつて。お兄ちゃんが言った。

カオル ハラッパのお兄ちゃんなんか信用できないよ。

真夏原 なんてだよねー

カオル なんかお尻とか好きだし。

真夏原 お尻が好きなのはしょうがないよ。男だから。

カオル え？ 私も好きだよ。

真夏原 ええ？ ヤバイよ、それ。マジヤバイそれ、ちょっと。

カオル え、え、じゃ、いつか男にもなっちゃおうわけ、あたっ？

真夏原 なるなる。ていつかもう、なりかかってる。

カオル 嫌だー。へんだー。

真夏原 だからあねだ、み、全部いつかは自分のやる、役だからね。

カオル じゃあなにじゃあ。

真夏原 何？

カオル 「昔、昔はつれごとおぼあそぶがめつまつた」つれごとおぼあそぶの。

真夏原 モチロンね。

カオル ええー。

真夏原 私の予想ではね、いつ、桃を捨つおつれごとおぼあそぶがめつまつ。

カオル うん。

真夏原 その川の上流に住んでいる、桃を捨つなかつたおつれごとおぼあそぶがめつまつ、いつかな。

カオル なにそれー、しまんない。

真夏原 バカ。ニシン、バカ、聞きなさい。

カオル ハイ。

真夏原 世の中はね、目立役と目立たない役があつたのよ。

カオル 目立ちたい。

真夏原 わがままいつなの野郎。

カオル だってさー

真夏原 バカ！ ニシン、バカ！ バカ！ バカ！ バカ！

カオル 言う過ぎだよ。

真夏原 欲しがらませんと勝つまじはー！ いや勝つても。勝つても欲しがらなー！

カオル 軍部独裁だ。

真夏原 (慣れ慣れして) 意外と目立たない奴がすげえおもしろかったらするんだって。  
カオル 本当じゃ？

真夏原 ちょっと想像してみようよ……。。

## 夏の午後 ◎桃を拾い損ねる

カオル あー、あー、あーっ！  
真夏原 なになじ？

カオル 桃、桃、桃だよー！ でけー！ かわいい桃だよー！

真夏原 いいから、ちゃんと洗濯しろよなー。まだふんどしすげえ残ってるんだからさー。

カオル いや、ほんとでかい。桃、でかい。桃。かわいい。

真夏原 何興奮してるの。うわー！ でか、桃、でか。かわいい……くはないよ全然！

カオル でかいっしょ。うわ。どんぶりこっしっしっしっし。

真夏原 うわー。なんだろっあれ？

カオル (決心して) よし、あたし拾っしん。

真夏原 待つて待つて待つて。

カオル 何？

真夏原 いや、なんせいつかさー……。。

カオル 何、早くしないと流れてっちやうや？

真夏原 ヤバくないあれ？

カオル 何が？

真夏原 だってでかすぎじゃん。なんか毛穴汚かったし。

カオル それが何？

真夏原 や、多分ね……。あれ呪いの桃だよ。うん。呪いかかっしん……。んんん。

カオル 大丈夫だよ。

真夏原 いや、やめよう、やめよう。

カオル あ、あー、もうっしっちやうや。

真夏原 っしっしっしっし。

下流の人々になる。

じいじ なんだべな？

おばあ べしすた。おっしん。

じいじ いんや、なんか桃さ流れてきたっべな。

おばあ べしすべな？

じいじ よむかたむかたむかーん、べし、べしおひきっしんか。

おばあ なんだ。もむえんもむえんむむむむむむ。

じいじ はい、拾いました。





真夏原

あんた「どなぶらじっ」言いたいだけぢっよ。

カオル

ちよつとね。

真夏原

(急に大声で) そっいつ時代もさ！

場面転換。

## ランドリー ◎バラバラ・エロロ

このシーンはランドリーに戻る前。乾燥機の中。  
着替え。

真夏原 ……あつたんだっつよ。

カオル え？

真夏原 だからア、そういっじいさんはあさま時代もあつていつてたのよ。大丈夫ニシン？

カオル あれ、ハラッパ？

真夏原 何よ。

カオル なんがあつちこち行くからだんだんわかんなくなつてきた。

真夏原 ずつとにににるじやない。

カオル こっつて？

真夏原 乾燥機の間こつ側。入つたでしょ？

カオル うん。あ、あたしのこと思い出したのはあれ？ 消火器効果で？

真夏原 え？

カオル さっき忘れてたでっしょうがー

真夏原 思い出したのはあんたでっしょう。

カオル あたし？ 何を？

真夏原 ちっちゃい頃とか、じいばは時代とか。あたしのこととか。

カオル そっか。そつだ。思い出した。

真夏原 大丈夫かあ？

カオル 忘れたことさえ忘れてた。

真夏原 思い出し祝いに寿司でも食いに行こつせ。

カオル いや、それとあと、これはそつだ。思い出した。

真夏原 何？

カオル あんたといたのつて、すぐ短い時間じゃなかつたっけ。

真夏原 そつだね。公園で知り合つてから引越していくまでジャスト四ヶ月しかなかつたもんね。

カオル ほんとこっ？

真夏原 ジャストだよ。うん、そんなくらい。つっても八歳だったし、なかなか覚えていられないか。

カオル もつとずつと一緒になつたような気がした。ほら、あたしその後の十年間でできた友達はハ

ラッパだけだつたから。

真夏原 うーん、暗い。

カオル いろんな遊びしたけど、あんたと遊んだのか、一人で遊んだのか思い出せないや。

真夏原 どんな遊びせ？

カオル ええ？ ーん……。「ロンビで妊婦」とか。

真夏原 コンビで妊婦？ っつじんなの？  
カオル だから……

2人、突然妊婦になる。臨月なみのでかい腹を抱えている。

真夏原 あーら、奥さん何ヶ月？

カオル もつ六ヶ月ですよ。

真夏原 じゃ、もつ安定期じゃない。

カオル そつなんだけどさ、オウ。オウオウ。

真夏原 何、どつしたの？ 蹴った？

カオル 蹴った蹴った。奥さんは、オウ、何ヶ月よ？

真夏原 あたしはまだあ……。

カオル オウオウ、

真夏原 4ヶ月ちよつとつてとこかしら。

カオル オウオウオウ、

真夏原 ちよつと大丈夫なのあんた？

カオル 活発な胎児で。

真夏原 ぶん殴つて静かにさせましようよ。

カオル なんちゆうこつこのよ。

カン。と、ボクシングのゴングがなる。

2人、胎児ばかりを狙つた悪質なボクシング。

やつている最中にも胎児が暴れる。

2人、やがてお互いを殴らなくなるが苦しみ続ける。胎児が暴れているのだ。

真夏原、戻つて、

真夏原 あー、それやつた、やつた。

カオル ね。

真夏原 あとほら、二人で一人の男取り合つてたりとかしたわー。

カオル えー、うそーん？ そんなことあつた？

真夏原 まだ忘れてる。幼馴染の田宮マヒロ君。そ、あんたマヒロ君と寝たでしょ？

カオル 寝た。寝ただけであれは……。

真夏原 寝たんだ……。けど、とかいわないで、不潔。不潔よこの便秘。おてんば便秘ガールズ！

カオル あ、グループなんだ。

真夏原 そつよグループよあたしたち。

カオル お前もかい！ びっくりした……。

真夏原 だって、あたしはずーつと一緒だいたわけだし。

カオル 想像の中ででしょ。本当は四ヶ月だけ。

真夏原 本当にどう思ったの？

カオル え、何が？

真夏原 四カ月だけってさ。そんなちっぽけな「ソレ」だと思ってるのあんた？

カオル ん？ だって、本当の「ソレ」さ。

真夏原 違う違う違う。本当の「ソレ」教えてあげるよ。本当はね、おてんば便秘ガールズは結成したの  
四〇〇〇年前ね。

カオル 四〇〇〇年？

SE。

真夏原 そっぴんそっぴん、そうなのよ。生まれ変わってはまた出会う、二人は四〇〇〇年もの間、それ  
そのの人生で短い逢瀬を楽しんだのよ。

カオル なにこわ？

真夏原 あんたはそれを忘れている。

カオル じゃあ覚えていよう。

真夏原 だからちやんと四〇〇〇年分の思い出を取り返さなきゃ。

カオル どうやって？ 四分前までの「ソレ」をわちゃっしたの？

真夏原 でも「ソレ」思い出したの？

カオル 思い出した。

真夏原 ならもう一度、取り返す「ソレ」がほしい。

カオル ね、ハッピーさ。

真夏原 なんて「ソレ」。「ソレ」さ。

カオル 私、また「ソレ」を忘れるかな？

真夏原 え？

カオル せいかく八歳の「ソレ」からの付き合ってたの「ソレ」を覚えてあたらしく、ハッピーな人とって友  
達がいた「ソレ」を忘れていたわけじゃない？ だからまた、その「ソレ」を覚えてちゃって、ハッピーな  
ていう人はあたしの中でいなくなったのとおんなじことになっちゃうのかな？

真夏原 なるよ。なる。なる。どうして、まだまだ思い出してない「ソレ」の「ソレ」が「ソレ」さ？

カオル あ、どう？

真夏原 四〇〇〇年分の思い出よ。

カオル んー、どうして「ソレ」さ？

真夏原 なんなら「ソレ」。

カオル あたしお母さんに聞いたんだけど……ハッピーはずっと前に死んじゃったぞって。

音楽が止まる。急ブレーキの音、再び。

ランドリー ◎死んじゃってる・交代

真夏原 最初に言ったじゃん。あたし、死んでるからって。

カオル 高校の頃だったかな？ もうなんか、あんたのこと大分忘れてたから、死んだって聞かされても「へー」っていう感じで全然実感湧かなかったんだけどさ、お母さんが、「アンタがあんまりショック受けたらいけないと思って」って、そんなこといってさ、

真夏原 地元の小学校を工事しに来てた十トントラックにはねられて夏休みが終わる三日前にパキンてあばら骨折って、それが肺に突き刺さって真っ黒い血吐いて死んだんだ。

問。

真夏原 信じてないっしょ？ あたしがハラッパだっつてさよ？

カオル ていうわけじゃないけど……死んだんでしょ、だって……？

真夏原 かー、失礼しちゃう。カー。キー。カー。

カオル わかったよ。「カー」ね。ああそつ。

真夏原、どこかに座りなおし。

真夏原 これ聞いたらちよっとは信用してくれるかな……。わざわざ死んだ人間がこんなところまで何しに来たかってさ。訪問理由。

カオル 何かあるの？

真夏原 交代に参りました。

音。

真夏原 目が醒めて、洗濯物が終わったらその時からあたし、あんたと交代してニシンになっから。交代って、は？ 別に今、寝てないっ。

真夏原 寝てるんだよ。乾燥機の外の世界ではそうなの。

カオル 何よそれ。それで何、私がハラッパになるの？

真夏原 なんないよ。だってほらハラッパは死んでるっ。

カオル じゃ、あたしは？

真夏原 ニシンは川に帰るのよ。

カオル はは。あ、そうなんだ。

真夏原 うん、そつ。

カオル 桃の中にも入って揺られるか？

真夏原 どんぶらぶらっつー、どんぶらぶらっつー。

カオル それいいただけでしょ

真夏原 あー、まだ信じてないんでしょ？

カオル ええ。

真夏原 いや、本気でね。乾燥機から出てランドリーに帰るのは一人だから。あの丸い出入り口は乾燥と潤いが入った世界の出入り口。ほら、人間生まれてくるときは必ずぬれで登場するわけじゃない？　そして死んでく時にはバサバサに乾燥して去っていくわけよ。

カオル で、あたしが去っていくわけ？

真夏原 あんたが乾いて私が潤う順番が来たの。

カオル そんなの誰が決めたの？

真夏原 誰が決めなかったって雨は降るし、そんなにまた乾くでしょ。

カオル で、何？　ハイ、そうですか、つってあたしがそれを信じてるわけ？

真夏原 信じなくとも帰るのはあたしだけだから。

カオル え、ヤダよ。帰ってよ。

真夏原 それちよっと無理なんっすよねー（米屋のお兄さん風）

カオル なんて？

真夏原 だから順番だからって。人の話聞いてた？

カオル 聞いてるけど、え？　帰ってよ。

真夏原 それちよっと無理なんっすよー（再び）

カオル 誰よそれ。だつてあんたは帰るんでしょ？　あたしは？

真夏原 ん？　居残り？

カオル 嫌だよそんなの。まだ死にたくない。

真夏原 死ぬとかいわないですよ。あくまでも交代なんだから。

カオル え、やーだ。ん、交代ってどついつの意味、だいたい？

真夏原 そのまんまだよ。あたしが高橋カオルとして生きてくの。さっきみたいに。

カオル さっき？　あー、さっきか。

真夏原 そうです。

カオル えー。釈然としねー。

真夏原 ま、あんまりいいこともなかったしねえ。……セ・ラ・ヴィ。それも含めて人生さ。

カオル そんなの、するよ。あたしが今まで高橋カオルとして生きてきたことを全部あん

たがのこころわけ？　だつてさういふことですよ、あんたが言ってるのは。

真夏原 人間が悪いと言わないですよ。私が代田ってわけじゃないからね。あんたがずっとやって

きたことを思っている高橋カオルだつて何回も何回も交代わりして、さよならを言わなければなら

カオル してないよ。交代なんて。

真夏原 忘れたじゃないか。さよならを言わなかった。さよならを言わなかった。だからあなたが  
こわいからほいほいさよならを言わなかった。さよならを言わなかった。さよならを言わなかった。

## ランドリー◎おわかれ

カオル ははは。

真夏原 ははは。

カオル それで何？　あたしがなんかあんたに言わなきゃいけないんだ？











問。

カオル この身体は最後まであたしのもの？

真夏原 ん？ そうかな。

カオル よかった。じゃ、このハダカ一っだけはあたしのもんなんだよね？

真夏原 爪の先から髪の毛一本に至るまで。

カオル 無駄なハダカだ。あたしのための。

真夏原 なにそれ。誰かのためのハダカだったの？

カオル そりゃあたしにだって、そんな話の一っもありませんよ。……だけじゃ、もう、誰のためでも

ない。

真夏原 あんただけのハダカ。

カオル 無駄だ……。もうちょっと一緒にいたかったね。

真夏原 ん？

カオル なんかごめん。あたしもわかんないけど、一人でいるよりは多分、マシだよな。この時間。

真夏原 マシ、っ……。っ。

カオル だって悔しいじゃん。『高橋カオル』を取られてしまっわけだから、あんたに。だからあん

まりあんたとしても嬉しくないとも思っけど、だけじゃ

真夏原 ありがとう。

カオル ……忘れないでね、って言葉が意味を持たないお別れだね。

真夏原 そんな感じ。

カオル あと、どのくらいあとのっ。

真夏原 あんまりないかな……。もう最後の脱水に入ってる。ホフ、聞えるでしょ？ コトコト回っ

てる音。

カオル それはあんたの音じゃない？ すびぬねになって出て来るほう。あたしの音はカフカフいっ

てるよ。乾燥機だからっ。

SE。カフカフ回る音。

カオル ……自転車のさ、車輪が回る音みたい。引っ張り返った車輪がカフカフ回っている時の音。

カオル、イヤフォンを真夏原と片方ずつしっける。

真夏原 残りもうちまっし何しよっか？。ね。

カオル もう少し、シヤベル——

音楽。2人、すびん近づきすびん話す。

ふたりが喋っている情景。そわが終わらば、

カオル 起きたらまず選択をしてよ。

真夏原 センタク？

カオル ザブザブ水使うほうがいいじゃない、何かを選択してほしい。どんな自分になるか。あたしのことを思い出すか、それとも忘れるか、選択をしてよ。

真夏原 生きていくんだから何かは選ぶと思ひます……。

カオル いんやー。いんやー。なんかあたしは、なんも選べなかつたから。なんも、好きなじいちゃんを。好きな人も。

真夏原 いろいろやってたんじゃないの。ほら、バンドとか……。

カオル ★そのバンドとかねー！ あんなのなごなごだから。全然ダメ。ちっしも好きじゃなかつたんだ。

真夏原 音楽が？

カオル 音楽も。メンバーも。全然好きじゃなかつたんだ。だからやめたんだもん。違うか。好きだったけどやめたのかな。わかんない。だけど気づくのが遅かった。だから、あんたはちゃんと選択をしてよ。

真夏原 覚えてたら。

カオル あー、ムカツクー！ じゃあ、あたしが考えた教訓を覚えてあげよ。忘れちゃつたらもういい。

ナーッ！ それは悔しすぎる。なんか、なんかに刻み込んでよ。DNAとかにさ。っおー！ っおー、賢い。あたしやっぱ、これはセンスある。

真夏原 どうしたの？

カオル 書いてくわ。メモ残したげるよ。あたし。紙ないの、紙？

真夏原 ないよそんなの。

カオル もうなんでもいっや、うーん、あ、アイスのふた。ふたでいいや。

2人 桃アイス！

カオル じゃ書くもの書くもの……は、じゃあいいや。

カオル、口紅をペンの代わりに使う。

カオル せめてハーゲンダッツでも買ってあげばよかった。

真夏原 言うて虚しくなるからやめたほうがいいよ。

カオル わかっているっ。

何かを書き付けるカオル。

カオル 眠る前と、起きた後とでは、違う人間になってしまうから。だから……。

真夏原 ん？

二人 起きてからさっさといっしょに寝る前とさっさと寝る後と……

間。

大いに笑つ。ふと、真夏原は笑つのをやめる。

イヤフォンを外して少し離れる。

真夏原 「ごめんなさいあの……、」

カオル ん？

真夏原 どちら様？

カオル ……。

真夏原 ってあれ？ すみませんなんか、あたし寝てました？ っーか叫びました？

カオル ……。

真夏原 すみません、なんか。

カオル ーのーの。ハラッパさん？

真夏原 は？ ……リップ？

カオル 高橋カオルさん？ じゃなかったらなんかもって別の人の名前？

真夏原 はい。な、なんでしよう？ え？

カオル ○○さん（真夏原を演じている俳優の名前）、っーかあなたの暮らしておき間になっーか、っかの誰かが活い狭い小さい劇場でそれを上演するかもしねなっーか、

真夏原 え、え？

カオル っかあなたにはあなたの役を降ろさねれる。まっかあなたはショックを受けへ、「なごめまたしがる」っっっっっ。」「この役はめだしのだめー」っっっっっと思っただわ。だげっせ、そう。そう。そう。そうものなんだ。……準備はよへっっっ？

真夏原 は？

カオル 「よへっっっ」っっっっなよ。「よへっっっ」っっっっの。っっ？ ……準備はよへっっっ？

真夏原 「よへっっっ」……っ。

カオル だったらね、今のうちによーへ、お化粧しよまなよ。

真夏原 お化粧？

カオル それがあなたの、手紙になるんだから。

音楽。暗転？

SE、車の急ブレーキの音。転倒音。

スポーツのカラカラ回る音。

やがてそれがピタリと止む。

真夏原が倒れた自転車を起こし、

真夏原 ……ええ、大丈夫です。怪我とか、大丈夫です。え？ ……いや、病院っつか、あたし、セ  
ンタクしないといけないとぞ。

## 普通の朝 ◎蝶々よごめのお洗濯に乗っく

眞夏腹、舞台の中央に一人立って。

眞夏原 普通の朝だった！……はずの眞夏の日本の朝まだき。見事な作戦によってそれは、記念すべき朝へと姿を変えた。徹夜明けの私が元気なのはおながが空いている間だけ。何かを口に入れればたちどころに睡魔に襲われる。だから私は作戦を立てた。バイト明けのアイスはロイヤンランドリーで食べればいい。そして私は、木で出来たショックキング・ピントクの表札の掛かっているワルム・マシヨンの部屋を、二週間ばかり不法占拠していた洗濯物ごもを片付けることにしよう。ついに、成功した！その量といたたらーシャッやらキャミソールやら、ブラジャーやらジーンズやら靴下やらタオルやらパンツにニーソックス、プリーツスカートに、縦に3本のラインの入ったゲージユのジャージーやら……んーともかくー！すべてのかたむねたお洋服は再びまっさらになって私の前に姿を現した。……今日の私はいつもの私とは一味違っていた。寝る前と起きてからとで違う人間になってしまったこともなへ、一つの仕事をやり終えたのだ！その爽快感を胸に、私はさっさとごごご、シャベル——ごごごめのお自転車がまたがって、自分の部屋へと凱旋する。

洗濯物をまよめる。

眞夏原、置ごごめのおメキコに話さへ。

メキコを手に取るお音楽。

メキコを持つて、家へ帰る。

終劇